

# 和田地区地域づくり計画

(地域課題解決事業実施計画)

期間 平成 28 年度～平成 37 年度

平成 29 年 2 月

ふるさと和田振興会

## < 目 次 >

第1章	計画策定にあたって	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけと期間	1
第2章	和田地区の現状と課題	2
1	和田地区の現状	2
2	策定委員からみた和田地区の状況	3
第3章	和田地区の基本理念	4
	①交流や親睦をつうじて住民の絆をつくろう	4
	②子どもが元気に育つ環境をつくろう	4
	③暮らしやすい環境をつくろう	4
	④和田の魅力（自然、産物、歴史など）を知り、広めよう	5
	⑤元気な住民活動を支える仕組みをつくろう	5
第4章	地域づくりの取り組み内容	5
1	地域づくりセンターの活用（憩とふれあいの場づくり）	5
2	和田地域の明日を考える会の設立	5
3	学校との連携	6
4	防災・防犯の取り組み	6
5	特産品の研究・開発	7
6	和田ツアーの実施	7
7	ホームページで情報発信	7
8	和田マイスター制度	8
第5章	計画の推進のために	8
1	計画の実現に向けて	8
2	計画の進行管理	8
第6章	地域づくり計画策定委員	9
1	委員名簿	9～10

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

平成16年11月1日、氷上郡6町が合併し、丹波市が誕生しました。それに伴い市内の各地区では、多様化する地区住民ニーズに対し、そこに住む私たちが自ら考え、自ら行動し、時に自ら負担することで「自分たちの地区は、自分たちで守りつくる」ことが重要であるとの考えを基に、行政（丹波市）と地域（25校区の自治協議会と自治会）とが互いに連携し、主体的に行動することの必要性が認識されてきました。

丹波市では、平成19年以降、地域づくり事業を本格的に開始し、市民一人ひとりがまちづくりの主役であることを自覚し、住民生活に必要な公共サービスを住民で支えて行く地域社会の実現をめざしています。

このような中、ふるさと和田振興会では地区の更なる発展と地域住民福祉の一層の向上を図るため、多様な観点から地域を見つめ直し、具体的な地域づくりに向けて平成24年3月に平成27年度までの地区振興計画として「元気な地域づくり特別事業計画」を策定しました。

昨年度にこの計画が終了したことから、この「元気な地域づくり特別事業計画」を基本として、現状を分析し計画実現に向けての施策の継承と補充を行うとともに、激変する社会の変化も踏まえながら、新たな課題に対応すべく、計画策定委員を選任し、今年度より10か年の指針として本計画を策定することとしました。

## 2 計画の位置づけと期間

本計画は「丹波市地域づくり事業」に基づき、和田地区地域づくり計画として位置づけます。また、開かれた市政の実現のために、より多くの地域住民の意見を取り入れ、地域住民のだれもが共有できる地域づくり計画とします。

本計画の期間は平成28年度から平成37年度までの10年間としますが、社会情勢の変化や施策の動向を踏まえ、必要に応じて随時計画内容の検討と見直しを行います。

### 丹波市地域づくり事業

「自助・共助・公助の考え方」により、住民生活に必要な公共サービスを住民で支えて行く地域社会の実現を目指すことをねらいとして展開されている事業です。

### 和田地区地域づくり事業計画

本地域での現状や課題を踏まえたうえで、住みよい活力ある地域づくりを進めるための基本理念・目標や施策などを定めた計画です。

## 第2章 和田地区の現状と課題

### 1 和田地区の現状

#### (1) 人口と世帯数の現況と推移

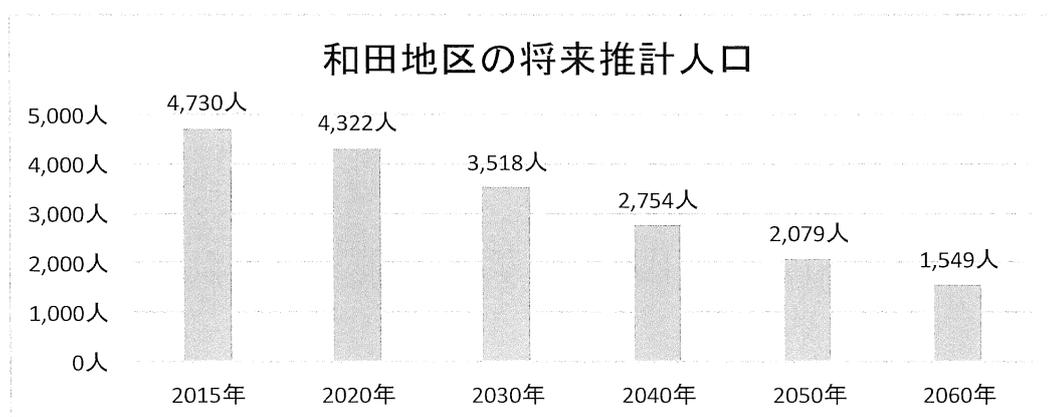
平成以降の本地区の人口推移をみると、減少傾向となっており、この減少は今後加速するものと推測されます。一方、世帯数の推移をみると、平成13年までは核家族化により増加傾向となっておりましたが、それ以降は減少傾向にあります。

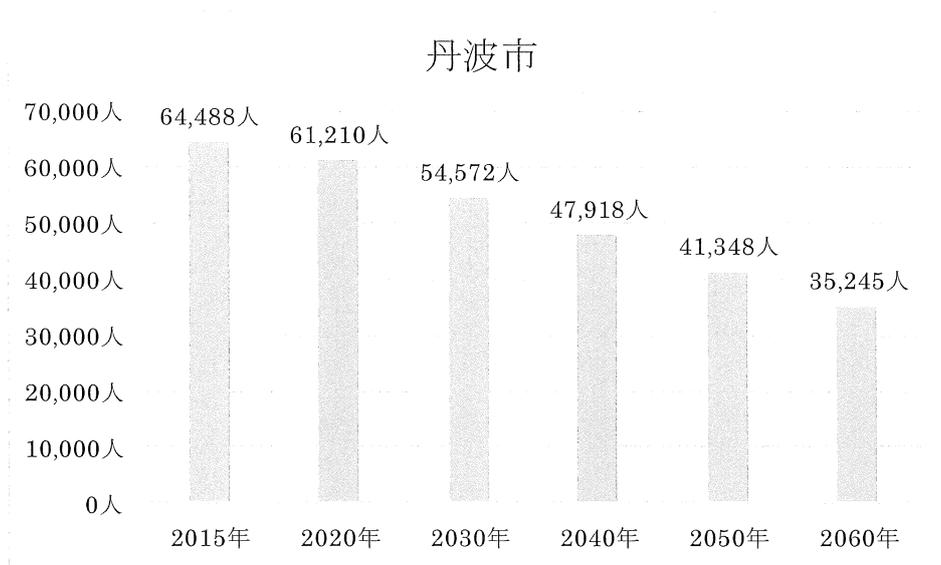
コーホート変化率法※による丹波市の推計人口も15年後には14パーセント減少し6万人を大幅に割り込みます。※国立社会保障・人口問題研究所の基礎数値を基にして、45年後の2060年丹波市の推計人口を発表されたもの。

和田地区の推計人口も2015年4,730人あった人口が5年後には4,322人、15年後3,518人（26%減）、35年後には2,079人（57%減）と推測され、現在の人口を維持することは考えられません。現状のままでは、人口減少に伴う地域ネットワークの崩壊、空き家や空き地、遊休農地激増等の地域環境問題が加速化するものと推測され、早急な地域の活性化を図る施策が求められます。

丹波市山南地域の人口推計(丹波市のデータより)

地区名	2015年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
上久下地区	1,479人	1,405人	1,268人	1,163人	1,087人	1,078人
久下地区	3,391人	3,187人	2,776人	2,353人	1,940人	1,612人
小川地区	2,304人	2,224人	2,058人	1,855人	1,679人	1,563人
和田地区	4,730人	4,322人	3,518人	2,754人	2,079人	1,549人
山南町	11,904人	11,138人	9,620人	8,125人	6,785人	5,802人





## ② 策定委員からみた和田地区の状況

### (1) 和田地区のイメージは・・・

現在の和田地区の特に良いと思うことについては、「美しい自然に恵まれている」が多数を占め、次いで「受け継いできた歴史・伝統がある」、「個性的な農産物がある」との意見が聞かれ、豊かな自然環境が本地区の魅力であることがうかがえます。一方、それ以外の項目は少数意見となっており、個々の特性に合わせて地域づくり全般に関わる総合的な施策展開が必要です。

### (2) 和田地区の課題や問題点は・・・

今の和田地区で特に問題点（課題）だと思うことについては、「地区資源を守り活かすためには来訪者のための整備が必要」が最も多く、次いで「地区の担い手が少ない」との意見が聞かれます。地域資源である岩尾城跡の登山道の整備や、人と人のつながる仕組みの構築など、地域の住民誰もが住みやすいと感じる地域づくりが求められます。

### (3) 住民の定住意向は・・・

今後も和田地区に住み続けたいと思うかについては、「今後も住み続けたい」が最も多く、定住意向が強い地区となっており、年齢が上がるにつれてその意向も強く聞かれます。しかし、若年層は「どちらともいえない」という意見も多く、商店や医療機関が少ない等の理由により、今後都市部や他地域への流出が増大することが考えられ、若年層の定住意向を高めることが求められます。

### (4) 子どもの環境と住民の関わりは・・・

子どもを取り巻く環境についてみると、子どもの登下校や友人宅へ出掛ける際にも不安があるという意見が多く聞かれます。しかし、不安を感じているものの、特に登下校時の見守り活動に参加しようと思わないという意見も多く、積極的な参加意向はみられず、「見守り活動」への参加意識を高め

る必要性があります。また、こうした活動への参加をきっかけとしながら、地域活動への参加を促進していくことが必要です。

### (5) 地域の教育力は・・・

教育について、和田地区で取り組む必要があると思う活動についてみると、子どもと一緒にまちづくりを進めることが重要であるという意見が最も多く、次いで子どもの居場所をつくり、子どもを見守るまちにしようという意見も聞かれます。子どもたちが健全に育つことができるよう、地域での活動や地域で子どもとふれあう機会をつくり、地域の教育力を高めていくことが求められています。

## 第3章 和田地区の基本理念

### 【たちばな香る 漢方の里 和田】

#### 【説明】

「たちばな」は和田地区に古くから伝わる木で、小中学校の校歌に謳われ、神紋等にも多く取り入れられています。

その「たちばな」は和田地区の歴史と自然を象徴するものであり、子どもから大人まで全ての住民と地域をつなぐ、和田地区のシンボルに掲げます。

さらに、地区特有の資源である漢方（薬草、薬樹）を生かした里として元気な地域づくりをアピールしています。

#### ①交流や親睦をつうじて住民の絆をつくろう

- 地域住民が気軽に集え、交流できる場をつくろう。
- 自治会ごとの祭りや行事、健康づくり活動を盛んにして、住民の絆（つながり）をつくっていきこう。

#### ②子どもが元気に育つ環境をつくろう

- 子どもの居場所をつくり、子どもを見守るまちにしよう。
- 子どもと一緒に考え、まちづくりを進めよう。
- 学校やPTAとの連携強化を図り、定期的な交流会を開きます。
- 中学校統廃合への意識付けをしておこう。「和田地区の明日を考える会」（仮称）を設立し、様々な教育課題について考えて行きます。
- 地域内の認定こども園や自主的な子育て支援サークルへの支援を行います。

#### ③暮らしやすい環境をつくろう

- 防犯・防災力を高める活動を進めよう。
- 世代間のつながりを大切に支え合う地域づくりで安全・安心を築こう。

- 災害は忘れないうちにやってきます。普段からそなえよう。
- 高齢者がいきいきと暮らせる地域社会づくりや暮らしを支える方法を考えていこう。
- 高齢者自身の意欲や能力を活かしていこう。

#### ④和田の魅力（自然、産物、歴史など）を知り、広めよう

- 「和田ツアー等」を開催して、住民、子どもが和田をもっと知ることを広めよう。
- 和田のまち（旧街道、城下町）を資源として、いろんな利活用を考えよう。
- 岩尾城跡や城下町を活かしたまちづくりなどを内外に向かってアピールしよう。
- 地域で古くから盛んな花卉や薬草を使用した加工品の研究をしよう。

#### ⑤元気な住民活動を支える仕組みをつくろう

- 地区の人や活動が和田の財産で、それを支える仕組み（地区マイスター制度※）をつくろう。※その道の匠、名人。

## 第4章 地域づくりの取り組み内容

### 1 地域づくりセンターの活用（憩いとふれあいの場づくり）

#### 【現状と課題】

- 地域住民が自由に憩え、気軽に交流ができる場所が少ない。
- 地域内の情報共有が不足している。

#### 【今後の取り組み】

##### ◇地域づくりセンターふれあい喫茶の開催

- 地域住民が自由に語り、コミュニケーションができる憩いとふれあいの場を設置することにより世代間交流、活性化を図ります。
- 地域への関心を高めるとともに、地域防災・地域活動への参加意識のきっかけづくりにつなげます。
- 地元の食材を使った「ふれあい喫茶」を定期的で開催していきます。
- 従来の住民育大会等の各種運動イベントを開催し地域への関心を高めるとともに、健康づくりや教育に関する地域活動への参加意識のきっかけづくりにつなげ、健康増進と親睦交流を深めます。

### 2 和田地域の明日を考える会の設立

#### 【現状と課題】

- 地域における課題について、適宜検討・協議する場がない。
- 地域の将来の姿を和田を担っていく子どもたちと一緒に考えることが大切。

#### 【今後の取り組み】

##### ◇和田地域の「明日を考える会」の設立

- 地域課題の解決に向けて適宜検討協議できる場「和田地域の明日を考える会」（仮称）を設立していきます。
- 将来の地区の姿を考える場づくりを実践していきます。

## ・ 3 学校等との連携

#### 【現状と課題】

- 振興会と学校・PTA との交流会の場がない。
- 世代間交流の機会が無く、保護者世代（若年層）の意見を聞くことができない。
- 地域の防犯力向上のためにも、登下校の見守り活動への参加を促し、地域ぐるみで防犯意識を高める必要がある。
- 地域の子どもたちと一緒にワークショップ等で地域の「未来図」を作成する。

#### 【今後の取り組み】

##### ◇学校・PTA との連携強化

- 振興会と学校・PTA との定期的な交流会の開催をしていきます。
- 子育て支援の一環として、「認定こども園わだ」や地域内独自に活動されている「子育てサークル」への支援の一環として絵本等を購入していきます。
- 和田地区の文教エリアである地域づくりセンター周辺の認定こども園や小中学校と連携することにより、地域のこどもを地域で育てる意識の醸成を図ります。
- 子どもの見守り活動への参加を促し、登下校時の通学路の安全確保を強化します。
- 地域の一大イベントである「漢方まつり」の取り組みの中で、認定こども園の園児、和田小中学校の児童・生徒と一緒に取り組める企画を検討していきます。

## ・ 4 防災・防犯の取り組み

#### 【現状と課題】

- 防災意識の向上を図り、自主防災活動を地域全体に浸透させていく必要がある。そのためにも、防災マップの作成や、防災関連資材の完備、定期的な防災訓練の実施が求められている。
- 世代間におけるつながりや、地域の利便性の向上を図る必要がある。

#### 【今後の取り組み】

##### ◇防災活動の充実

- 定期的な防火・防災訓練を実施し、地区における防災に対する意識向上と防災力を高めます。

- 防災・救助資材等を行政と連携し、整備と備蓄を図ります。
- わかりやすい内容の防災や防犯の講演会を開催し、地域の防犯意識を向上させます。
- 和田地区全域の防災マップ等を作成します。
- 防犯活動への参加を促します。

## ・ 5 特産品の研究・開発

### 【現状と課題】

- 地域で古くから栽培の歴史のある薬草や花卉について、内外に周知できるような特産品の研究・開発をし、産地としての競争力の強化を図らなければならない。

### 【今後の取り組み】

#### ◇たちばなを活かした特産品の開発

- シンボルであるたちばなを地区内に広く植樹し、栽培に関するエキスパートを丹波農林振興事務所、丹波農業改良普及センター等の指導により養成し、住民も育て方等について学ぶ機会を設定し、広く周知していきます。
- 兵庫医療大学や研究機関等と連携し、薬草等の特産品の試作について、研究していきます。さらに、収益事業も含め農業の6次産業化に取り組む組織等の地域参加型事業を支援し、地域の活性化につなげます。

## ・ 6 和田ツアーの実施

### 【現状と課題】

- 地域内の伝承すべき知恵や情報についての収集が少ない。
- 地域内の散策に必要な情報ガイドマップ等がない。

### 【今後の取り組み】

#### ◇地域を知る

- 情報で付加価値を高めて和田ツアーやスタンプラリーなどのイベントを開催していきます。
- 伝承すべき知恵や情報について集めます。
- 登山道の整備や看板の設置などを実施し、岩尾城跡を中心とした和田散策コースマップを作成します。

## ・ 7 ホームページで情報発信

### 【現状と課題】

- 掲載内容について、各自治会やグループからの情報持込に対してリアルタイムで情報発信ができていない。
- 和田地域の名所や散策スポット、また、特産品等の紹介ができていない。

## 【今後の取り組み】

### ◇リアルタイムでの情報発信

- 各自治会等の情報提供について、リアルタイムで情報発信ができるよう講習会等を開催し、操作方法の習得に努めます。
- 魅力あるホームページ作成のため、地域内で技能のある人材の発掘を行い、振興会と協力体制を築いていきます。

## ・8 和田マイスター制度（ワザの発掘・人材バンクづくり）

### 【現状と課題】

- 地域に伝わる伝承技能や知恵を後世に伝えていくための人材があるにもかかわらず、発掘できていない。

### 【今後の取り組み】

### ◇人材バンクの創設

- 各自治会より伝承者等の推薦をいただき、振興会で登録制の人材バンクを創設します。
- 振興会各種イベントや団体等のイベントに参加いただき、講習会などで、技能や知恵を伝承していきます。

## 第5章 計画の推進のために

### 1 計画の実現に向けて

ふるさと和田振興会は、地域づくりセンターを拠点として、和田地区の将来の地域づくりについて話し合い、その指針を示しながら、積極的に地域自治の実現を目指しています。「自助・共助・公助」の考え方のもと、丹波市、山南地域各自治協議会や、各自治会、各種団体との連携を図りながら、一人でも多くの市民に参加を呼び掛け、誰もが気軽に参加できる地域づくりに努めます。

### 2 計画の進行管理

本計画に基づく施策を計画的かつ実効性をもって推進するため、計画に基づく各取り組みの実施状況について整理し、進捗状況を把握します。その中で改善等の課題などを踏まえ、次年度以降の事業計画や事業に反映していきます。

## 第6章 和田地区地域づくり計画策定委員会

### 1 委員会名簿

ふるさと和田振興会役員を委員として兼任

役 職	氏 名	テーマ	説 明
委員長	武田久平		
副委員長	藤本勝美		
副委員長	山本賢司		
副委員長	安達 康		
事務局	石塚 正		
事務局	小島鈴代		
事務局	瀬川真由美		
総務部会	氏 名		
部会長	谷垣孝實		
委員	有田 豊		
委員	吉田和彦		
委員	土井正義		
委員	林 敬博		
委員	大嶋弘之		
委員	中野 勇		
委員	堂本一郎		
委員	大地朱美		
委員	橋間五鈴		
委員	山下博子		
環境・保健・福祉部会	氏 名		
部会長	岸本幸宏		
委員	若林義之		
委員	前川芳彦		
委員	西脇寿幸		
委員	大地博之		
委員	小島富士夫		
委員	中原富夫		
委員	中西一博		
委員	衣笠 悟		
委員	藤井靖彦		
委員	村上芳功		
地域安全まちづくり部会	氏 名		説 明
部会長	石垣敏彦		
委員	藤原直也		

委員	橋間隆明		
委員	北田純子		
委員	荒木満紀子		
委員	前川昌美		
委員	大垣佳代子		
委員	松浪君絵		
委員	前川沙織		
体育部会	氏名		説明
部会長	眞島日出夫		
委員	高杉邦雄		
委員	森 由美		
委員	西山浩之		
委員	池田昌功		
委員	土田博司		
委員	大地隆一		
委員	荻野宏史		
財産管理部会	氏名		説明
副部会長	足立秀勝		
副部会長	前川博幸		
委員	柏 雅直		
委員	大地常夫		
委員	神崎正憲		
委員	藤原常夫		
委員	古家 博		
委員	衣笠光茂		
委員	藤原喜代志		
委員	中野勘三郎		
委員	浅井 明		
委員	柏原道央		
委員	山下卓一		
委員	林 敏和		
委員	吉竹加根生		